

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2014.4.15

NO.217
.....

科学教育研究レター



目 次

■ 理事会だより2	■ 年会9
第 260 回理事会議事録 (案)		第 38 回年会開催案内 (第 4 次)	
第 260 回理事会報告 (案)		■ 研究会・支部だより12
■ 会告5	2013 年度研究会開催のお知らせ	
シニア会員の創設について		■ 国際交流委員会だより14
■ 組織改革5	国際学会開催情報	
法人化部会からの報告		■ 編集委員会だより15
■ 学会賞6	特集のお知らせ	
第 37 回年会発表賞の決定		2013 年度第 2 回編集理事会報告	
2014 年度学会賞候補の募集		■ 広報委員会からのお知らせ17

一般社団法人日本科学教育学会第 260 回理事会議事録（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2014 年 3 月 15 日（土）13:00～13:50
会 場 コクヨ東京品川オフィス 11F 会議室
出席者 中山 余田 片平 熊野

1. 電子会議による審議事項と審議結果

- 会長からの発議により、代議員選挙管理規程、役員選任規程が承認された（2 月 14 日）。
- 会長からの発議により、代議員選挙管理規程、役員選任規程の改定が承認された（2 月 21 日）。
- 以上を確認した。

2. 協議事項

1) 諸規程（案）について

- 学会 Web サイトで公開していた規程（案）を規程として制定する。ただし、一部の規程については次のように対応する。
- 支部規程、研究会規程に関しては任意団体科学教育学会の理事会での審議に基づき、決定する。
- 代議員選挙管理規程について、開票に関する規定を追加する。（具体的な案は ml で流して了承をえる。）
- 以上を承認した。

日本科学教育学会第 260 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2014 年 3 月 15 日（土）14:00～17:00
会 場 コクヨ東京品川オフィス 11F 会議室
出席者 会長 中山
副会長 余田 片平
理事 小川 飯島 猿田 益子 銀島 寺田 小山 稲垣
今村 鈴木 縣 隅田 千葉 高藤 日野 久保田
谷塚
監事 堀 熊野
事務局長 土田
委員会 編集 吉川

1. 議事要録（案）の承認

- 第 259 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 260 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

- 事務局からの発議により、11 月 30 日までに入会を希望した 1 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（12 月 10 日）。
- 事務局からの発議により、12 月 31 日までに入会を希望した 2 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1 月 10 日）。
- 事務局からの発議により、1 月 31 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（2 月 20 日）。
- 事務局からの発議により、2 月 28 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（3 月 10 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

- 事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

- 中間決算について報告があった。

3) 機関誌編集

- 資料に基づき編集状況について報告があった。次年度特集号のテーマを、「科学・技術」とし、特集編成部会の構成メンバー等について報告があった。
- 編集委員会の次期メンバー候補者リスト作成の作業に着手する旨の報告があった。

4) 学会賞

- 2014 年度学会賞候補の募集を、学会 Web サイトに掲載して開始することの報告があった。

5) 支部・研究会

- 資料に基づき「科学教育研究報告」の表紙及び奥付の表記について報告があった。

6) 調査研究・学术交流

- 5 月 17 日に、教科「理科」関連協議会のシンポジウム「高等学校理科で何を学ばせるか」が日本化学会ビル（お茶の水）にて開催予定の報告があった。
- 資料に基づき、日本学術会議高校理科教育検討小委員会の設置について報告があった。

7) 国際交流

- 2015 年に ICASE のアジア大会がシンガポールで開催されるとの報告があった。

8) 年会企画

○ 第 38 回年会について、準備が順調に進んでいることの報告があった。

9) 広報・学会 IT 化

○ ホームページの表示の動画の部分に問題点があるので、修正するとの報告があった。

○ 会長より、投票の電子化に関して検討を始めることの依頼があり、確認した。

10) その他

○ 一般社団法人日本科学教育学会の理事会の審議内容について報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○ 退会希望者 10 名の退会を承認した。

2) JSSE 機関紙電子化部会

○ 9 月 10 日に機関誌 38 巻 1、2、3 号を電子媒体で公開できるように進めていく予定であるとの報告があり、承認した。

3) 学会賞

○ 年会発表賞の対象として次の 3 件が提案され、承認した。

・平澤林太郎（小千谷小学校）、久保田善彦（宇都宮大学）、舟生日出男（創価大学）、鈴木栄幸（茨城大学）、加藤浩（放送大学）「調べた情報を比較・整理し、変化を発見する授業のデザイン-小学校 3 年総合的な学習の時間「自然がいっぱい! 船岡山」の実践から-

・上ヶ谷友佑（広島大学大学院教育学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）「直線に関する小学 2 年生の非標準コンセプト」

・小泉友香（筑波大学）、日野圭子（宇都宮大学）「日本の経験豊富な教師による算数科授業における相互作用の構成」

4) 支部・研究会

○ 支部長の交代について、北陸甲信越支部長であった藤岡達也氏（上越教育大学）が他の支部に転出したことに伴い、水落芳明氏（上越教育大学）への交代が提案され、承認した。

○ 支部規程（案）について 第 3 条支部の構成に関する提案があり、承認した。

○ 研究会規程（案）について 第 7 条運営経費に関する提案があり、承認した。

○ 研究会運営経費に関する内規について提案があり、承認した。

5) 代議員選挙および理事選挙について

○ 代議員候補者、理事候補者及び監事候補者について案を決定した。

6. 次回以降の理事会予定

・第 261 回：2014 年 6 月 21 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

・第 262 回：2014 年 9 月 12 日（金）時間は未定 場所：埼玉大学

会 告

シニア会員の創設について

本学会の一般社団法人への移行に伴い、年会費が正会員の半額となるシニア会員制度を導入しました。一般社団法人日本科学教育学会定款第6条に規定されていますように、シニア会員は「正会員として10年以上在籍し、満65歳以上で会員種類の変更の申請を提出した者」となっており、会員本人からの会員種類変更申請について理事会で審議した上で、申請年度から会員種類の変更が承認されます。ただし、会費を滞納している場合は、それまでの滞納分を納金していただくことが申請の条件となります。シニア会員の資格条件を満たした正会員におかれましては、文書またはメールにて事務局宛に会員種類変更の申請を行ってください。

組織改革

法人化部会からの報告

■ 諸規程の制定について

法人化部会では、法人対応の規程案を作成する作業を進めてまいりました。3月には規程案を学会ホームページで公開して会員からの意見を募りました。併せて理事会でもその内容について検討を行い、必要な修正を行いました。そして、3月15日に法人設立時理事による理事会での審議を経て以下13件の規程を制定致しました。情報公開規程、会費等に関する規程、代議員選挙管理規程は新たに設けた規程です。研究会規程、支部規程、役員選任規程も法人化に対応するために手が加えられた箇所があります。規程を学会ホームページで公開しておりますので、ご確認下さい。

情報公開規程、国際交流委員会規程、学会賞表彰規程、広報委員会規程、編集委員会規程、『科学教育研究』投稿規程、著作権規程、年会企画委員会規程、会費等に関する規程、研究会規程、支部規程、役員選任規程、代議員選挙管理規程

第 37 回年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、会員からの推薦にもとづいて慎重に協議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。そして、平成 26 年 3 月 15 日に開催された第 260 回理事会の議を経て、以下の 3 件に 2014 年度年会発表賞を贈呈することを決定いたしました。誠にありがとうございます。

【年会発表賞】

上ヶ谷友佑（広島大学大学院教育学研究科・院生／日本学術振興会特別研究員）

発表論文：直線に関する小学 2 年生の非標準コンセプト、第 37 回年会論文集、pp.428-429、2013

選定理由：小学校の算数科において 2 年生でも図形に関する「非標準コンセプト」をもつ学習者がいることを丁寧に論証した研究であり、教材研究や学習指導法の研究に新しい手がかりを提供する可能性がある。

小泉友香（筑波大学）・日野 圭子（宇都宮大学）

発表論文：日本の経験豊富な教師による算数科授業における相互作用の構成、第 37 回年会論文集、pp.26-29、2013

選定理由：日本の経験豊かな教師による算数科授業ビデオを丹念に分析し、授業の局面が進展する際の教師による「導かれた焦点化パターン」という特徴を明らかにした研究であり、今後の発展性が期待される。

平澤林太郎（小千谷小学校）・久保田善彦（宇都宮大学）・舟生日出男（創価大学）・

鈴木栄幸（茨城大学）・加藤 浩（放送大学）

発表論文：調べた情報を比較・整理し、変化を発見する授業のデザインー小学校 3 年総合的な学習の時間「自然がいっぱい！船岡山」の実践から一、第 37 回年会論文集、pp.300-301、2013

選定理由：小学校の総合的な学習における思考ツールとしての「創発的分業支援システム」と「マグネットシート」の開発及びその有効性に関する実践研究であり、教育実践での活用が期待される。

（学会賞担当理事 小山、稲垣）

2014 年度学会賞候補の募集

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

1. 推薦期限

2014 年（平成 26 年）5 月 19 日（月）（必着）

2. 推薦資格

- (1) 本会会員とする。
- (2) 大塚賞は他薦のみ、その他の賞は自薦も可とする。
- (3) 会員は、各賞について、それぞれ 1 件のみ推薦できる。
- (4) 推薦者は、推薦の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできます）で、入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を一般社団法人日本科学教育学会事務支局に提出する。

3. 受賞資格

(1) 学会賞（大塚賞）

一般社団法人日本科学教育学会・大塚賞の受賞者は、科学教育に関する著しい業績や貢献によって本学会の発展に寄与した本会会員とする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。

(2) 学術賞

科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本会会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、賞の応募締切日から過去 10 年以内のものとする。なお、学術賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。

(3) 国際貢献賞

科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、賞の応募締切日から過去 5 年以内のものとする。なお、国際貢献賞受賞後、さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。

(4) 論文賞

科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に論文として発表した本会会員とする。対象となる論文は、原則として、賞の応募締切日から過去 3 年以内に発表されたものとする。なお、論文賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には、その論文について受賞対象とする。

(5) 奨励賞

科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年会論文集、研究会「研究報告」に発表した正会員で、受理の時点で満 38 歳未満の者とする。対象となる論文等は、原則として、賞の公募締切日から過去 2 年以内に発表されたものとする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。

(6) 教育実践賞

科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員とする。また、本会会員と

の連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループに対しても授与する。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去3年以内のものとする。なお、教育実践賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。

4. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は2件以内である。

5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補を選定し、理事会が決定する。

6. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2014年度定時総会において行う。

7. 受賞対象

論文賞の対象は、「科学教育研究」Vol.35、No.2以降に掲載の論文です。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.36、No.2以降、研究会「研究報告」Vol.26、No.6以降及び第36回・第37回年会論文集に掲載の論文が該当します。

第 38 回年会 開催案内（第 4 次）

1. 年会テーマ：学びの原点への回帰ーイノベティブ人材育成のための科学教育研究ー
2. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～15 日（月）（3 日間）
3. 会場：9 月 13 日（土）・15 日（月）：埼玉大学（大久保キャンパス）
（〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255）
<http://www.saitama-u.ac.jp/>
9 月 14 日（日）：大宮ソニックシティ（小ホール）、大宮ソニック市民ホール（集会室）
（〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町 1 丁目 7-5）
<http://www.sonic-city.or.jp/>
4. 主催：一般社団法人日本科学教育学会（後援：未定）
5. 年会実行委員会：[実行委員長] 清水 誠
[実行委員] 浅田茂裕、小倉 康、二宮裕之、松寄昭雄
6. 連絡先：日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学教育学部 小倉 康
7. 内容：次の内容を予定（詳細は年会 Web サイト及び次号『科学教育研究レター』で案内）
 - (1) シンポジウム
テーマ：産業界から見たイノベティブ人材育成のための科学教育
 - (2) 課題研究発表
 - (3) 一般研究発表
 - (4) インタラクティブセッション
例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場である。
 - (5) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など
8. 課題研究の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。
<スケジュール>
 - ・企画受付締切：2014年5月9日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
 - ・受理審議：2014年5月10日（土）～5月15日（木）【年会企画委員会】
 - ・審議結果報告：2014年5月16日（金）【年会企画委員会 → オーガナイザー】

・登壇者の最終確定：2014年5月30日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

・原稿提出期限：2014年6月30日（月）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

※6月30日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（Webアップロード）する期限であるため、注意されたい。

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究のWeb ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信すること。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければならない。
- ・登壇者（指定討論者含む）の確定：登壇者を企画受付締切までに確定すること。登壇者未定の企画は受理されない。なお、課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできない。登壇者を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究のテーマにおける発表と重複されていないかどうかについて、登壇者自身に対して発表の重複ができない点を周知した上で、確認してほしい。

ただし、指定討論者については、重複を認める。

- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問わない。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとする。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込むこととする。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されない。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議する。非会員による発表件数が企画受付締切時点（5月9日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって登壇者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されるので、留意願いたい。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味する。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、企画受付締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とする（他のセッションの発表についても、同様とする）。

<第37回大会に引き続き注意頂きたい点>

- ・一次受付がない。
- ・オーガナイザーは、ご自身で課題研究のWeb ページから課題研究申請用紙及び理由書をダウンロードすること。

9. インタラクティブセッションの申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2014年6月30日（月）

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

※申込及び原稿提出の受付開始日は、決まり次第、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知する。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、年会 Web サイトの原稿提出用リンクからアップロードすること。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

(3) 発表資格・発表可能件数

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければならない。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1 件である。なお、インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができる。

2013 年度研究会開催のお知らせ

2014年5月以降に開催する研究会については、下記の通りである。なお、案内及びプログラム等の詳細については学会ホームページに順次掲載するので、ご覧頂きたい。

(1) 2013 年度第 6 回研究会（四国支部開催）

[テーマ] 科学教育における ICT 活用／一般

[日 時] 2014 年 5 月 10 日（土） 10:00～17:30

[会 場] 香川大学幸町キャンパス研究交流棟 5 階研究交流スペース
(〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号)

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[問い合わせ先] 2013 年度第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：林 敏浩
〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20 香川大学総合情報センター
Tel&Fax : 087-864-2227 E-mail : [hayashi \[at mark\] eng.kagawa-u.ac.jp](mailto:hayashi[at mark]eng.kagawa-u.ac.jp)

*発表申込み等は終了しました。その他詳細は、学会ホームページでご確認下さい。

(2) 2013 年度第 7 回研究会（中国支部開催）

[テーマ] 科学力の育成と教師教育

[日 時] 2014 年 5 月 31 日（土） 10:00～17:00

[会 場] 島根大学教育学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込み]

発表を希望される方は、下記の事項を明記の上、第 7 回研究会企画編集担当：栢野彰秀（島根大学）まで、メールにてお申し込みください。

- ①発表題名、②著者名（登壇者に○）、③所属、④連絡先住所・氏名・電話番号・電子メール、
⑤その他、発表に関する要望、⑥懇親会への参加・不参加

[申込み先] 2013 年度第 7 回日本科学教育学会研究会・企画編集担当：栢野彰秀
〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060 島根大学教育学部
Tel : 0852-32-6307（内線 3685） E-mail : [a_kayano \[at mark\] edu.shimane-u.ac.jp](mailto:a_kayano[at mark]edu.shimane-u.ac.jp)

[申込み締切] 2014 年 5 月 7 日（水）

[原稿提出締切] 2014 年 5 月 16 日（金）

原稿は、栢野彰秀宛に Word ファイルと pdf ファイルを送ってください。

※発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail でお知らせします。

[その他] その他詳細は、学会ホームページでご確認下さい。

(3) その他の研究会開催予定

第8回研究会（東海支部開催）2014年6月／会場：三重大学教育学部

(4) 2014年度（次年度）の研究会予告

九州沖縄支部では、2014年度研究会（九州沖縄支部開催）を下記の日程で計画しています。

*2014年11月8日（土）10:00～17:00／会場：福岡教育大学（共通講義棟）

国際学会開催情報

今後、下記の3つの国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1. The 45th annual ASERA (Australasian Science Education Research Association) conference

開催地：オーストラリア、Hilton on the Park（メルボルン）

期間：2014年7月2日～4日

締切：2014年5月1日（アブストラクト投稿締切・フルペーパーの投稿も可能）

<http://newmediaresearch.educ.monash.edu.au/asera/index.html>

2. The 2nd International History, Philosophy and Science Teaching

開催地：台湾、Howard Civil Service International House

期間：2014年12月4日～7日

締切：2014年7月15日（論文投稿締切）、2014年10月15日（参加申込締切）

<http://www.sec.ntnu.edu.tw/ihpst2014/index.html>

（愛媛大学教育学部・隅田 学）

3. ISER(The International Society of Educational Research) 2014 World Conference

開催地：トルコ、Cappadocia

大会テーマ：Science, Mathematics, and Technology Education in the 21st Century:

Emerging Paradigms, Pedagogies, and Technologies

期間：2014年10月29日～11月2日

締切：2014年6月30日（要約の提出締切）

<http://iser-icer.net/>

（筑波大学人間系・清水美憲）

特集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第39巻、第2号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長 吉川 厚

特集編集部会長 山崎 貞登

記

特集名：科学・技術 (Science and Technology)

現代社会では、国民一人一人が自己実現を図り創造性を発揮するために、科学・技術に関わる能力を発達させることが必要不可欠である。車の両輪に喩えられる科学と技術は、双方がともに進歩する中で互いの成果を活用して発展してきた歴史的経緯があり、学校教育においても互いにその位置づけと関係の検討を踏まえて実施されることが望ましい。

近年では、諸外国においてSTEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育や、Artを加えたSTEAM (TEAMS, STEMAとも呼ばれる)教育が、フォーマルな学校教育と共に、学校外のノンフォーマル教育として行われている。日本でもこれを受けて科学、技術、工学、数学、アートなどを関連的に取り扱う観点からの研究が盛んになりつつある。

一方で、日本の学校教育課程では、理科、数学、技術などの各教科において科学・技術に関する教育が行われている。これらの各教育において、科学・技術の関連性を保ちつつ、目標・内容・方法などの固有性を明確にする検討を行うことは、科学や技術に関する教育が相互理解を深め、協働的な教育を推進していくために欠かせない。

またこのような、科学と技術に関わる教育を検討するためには、科学や技術に関する児童生徒の資質や認識、諸外国の教育課程や教育実践などの資料が必要である。

上記のような問題意識を踏まえて、本特集では科学・技術に関わる教育の関係構築や相互の教育研究の在り方について論じるため、以下の領域における論文を募集いたします。

- 1) STEM や STEAM の理論や実践に関する研究
- 2) 科学・技術の教科間における連携・協働に関する研究
- 3) 科学・技術に関わる児童生徒の資質や認識に関する研究
- 4) 科学・技術の連携・協働に関わる教育課程の研究
- 5) その他

なお、特集編集部会が、上記趣旨に合わない判断した論文につきましては、一般論文に回っていた
だくこともありますので、あらかじめご承知おきください。

以上

特集編集部会の構成メンバー

部会長：山崎貞登（上越教育大学）

副部会長：松浦拓也（広島大学）、谷田親彦（広島大学）

特集編集部会委員：小川正賢（東京理科大学）、小川義和（国立科学博物館）、熊野善介（静岡大学）、
角 和博（佐賀大学）、二宮裕之（埼玉大学）、人見久城（宇都宮大学）、
山口武志（鹿児島大学）など

投稿受付開始：2014年5月1日

投稿締め切り：2014年9月15日

発刊予定：2015年6月

2013年度第2回編集理事会報告

2014年3月15日（土）11時00分～13時00分、2013年度第2回編集理事会がコクヨ品川オフィ
ス1階106号室において開催されました。

2013年度第1回編集理事会（2013年11月16日開催）議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況
の報告が行われました。新規投稿論文（2014.2.5～2014.3.5）1編（内訳：和文1編、英文0編）、査読
中論文（2014.3.5現在）27編（内訳：担当編集委員選定中1編、査読者選定中3編、査読中（1回目）
6編、担当編集委員による総合判定中（1回目）1編、改訂稿待ち11編、査読中（2回目）5編）、掲載
決定論文（2014.2.5～2014.3.5現在）2編（内訳：研究論文1編、資料1編（通算合計38-2：2編）で
した。

続いて、以下の通り報告と議論が行われました。

(1) 第38巻第2号の特集(学習科学)について、村山特集編集部会長より編集状況の報告が行われま
した。発刊スケジュールの確認もなされました。

(2) 第39巻第2号の特集(科学・技術 (Science and Technology))について、寺田編集担当理事よ
り趣旨と特集編集部会の構成メンバーについて説明がなされました。

(3) 編集理事会で取り組むべき課題について、意見交換がなされました。

(4) 「科学教育研究」の電子化について、寺田理事よりの進捗状況の説明がありました。

次回、2013年度第3回編集理事会は、2014年6月21日（土）、11時～13時、場所はコクヨ品川オフィ
スを予定しています。

科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成26年3月5日 現在)

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2013年 2月	2	0	31	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		5	1
3月	12	0	31	0	5 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0	2 (37-2)	7	0
4月	3	1	32	1	0 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		2	0
5月	4	0	24	1	0 (37-2) 4 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		8	0
6月	5	0	23	1	2 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		3	1
7月	11	0	30	0	1 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		4	0
8月	6	0	28	0	0 (37-3) 1 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		7	0
9月	9	1	29	1	3 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		4	1
10月	16	0	37	1	1 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		7	0
11月	6	1	36	2	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		5	1
12月	5	0	35	1	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	1
2014年 1月	4	0	32	1	1 (38-1) 1 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		3	2
2月	1	0	27	1	0 (38-1) 2 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	0
3月	0	0	26	1	0 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	0		1	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第217号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会Webサイトにある「お問い合わせ」(Webメール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦(宇都宮大) 谷塚光典(信州大)
 委員：縣秀彦(国立天文台) 銀島文(国立教育政策研究所)
 稲垣成哲(神戸大) 東原貴志(上越教育大)
 今村哲史(山形大) 山口武志(鹿児島大)
 幹事：内ノ倉真吾(鹿児島大) 小松孝太郎(信州大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷(株) 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局(論文投稿・査読編集)

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会